

## 新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。旧年中は皆様より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年はアベノミクス効果による市場の好転に加えて、一昨年までの超円高が修正され、国内の輸出型産業を中心に、大方の企業がひと息つきました。しかしながらわが国は、消費税増税や、原発とエネルギー問題、TPP交渉などの数多くの課題を抱えており、景気は緩やかに回復しているとは言え、出口の見えない混沌とした状況にあるというのが実態です。

当社は、全社運動「DENKA100」の達成に向けて、昨年4月に新たに策定した成長戦略の下、いくつもの具体的施策を実行に移しました。「生産体制の最適化」では、食品包材用シートやPVCテープの現地生産や、酢酸ビニルモノマー事業からの撤退、特殊混和材事業の海外展開強化などを決定しました。「徹底したコストの総点検」においては、過去の習慣のとらわれない大小の工夫を凝らした取り組みを推進し、すでに多くの成果が挙がっています。「成長ドライバーへの資源集中と次世代製品開発」では、超高純度アセチレンブラックのプラント建設や、複数の外部研究機関とのコラボレーションを開始しました。

しかし「働く人の安全」においては、昨年は青海、大牟田、千葉の各工場で重大な災害と事故が発生してしまいました。今一度このことを深く受け止めて、次の100年を見越した真の安全操業を実現するために、全社を挙げて取り組むことを「年頭の誓い」といたします。

当社は資源とエネルギーを用いてものづくりを行う会社です。価値あるものづくりを行うと同時に、省エネルギー・省資源に配慮すること、環境負荷物質や廃棄物排出削減に努めることは、社会から信頼され、存続するための条件です。

そのため当社は、青海工場の水力発電所での増発電対策に加え、新たに渋川、伊勢崎両工場における太陽光発電事業参入するなど、クリーンエネルギー利用拡大と省エネルギーを強化してまいりましたが、今後も積極的に活動を推進いたします。

今年は、新成長戦略の次世代製品開発への施策の一つである、「デンカイノベーションセンター本館」が、東京都町田市に完成します。社会に広く開かれた拠点として、新ビジネスの創造の場に留まらず、社会貢献の場としても活用してまいります。また、新潟スタジアムのネーミングライツ取得により、本年1月より「デンカビッグスワンスタジアム」が誕生しました。スポーツ振興を通じて地域の活性化を支援してまいります。

東日本大震災の被災地復興への活動については、事業を通じた復興支援とともに、従業員による被災地支援ボランティアを、今後も継続してまいります。

最後に、皆様の健康とご多幸をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成26年1月1日

電気化学工業株式会社  
代表取締役社長 吉高紳介